

# Aーの導入と これからの働き方を考える

2018年、多くの日本人がAーに強い関心を寄せるようになった。オックスフォード大学の研究チームが予測した「Aー化によって10年から20年後に残る仕事、なくなる仕事」というレポートが日本に紹介されたからだ。メディアは「全雇用者の半数が仕事を失う」という見出でその衝撃を伝えていた。そしてすでに、SoftBankやUnimanagerなどの企業が学生採用にAーを活用している。

他方で、Aーの技術的進歩でわれわれが恩恵を得ているのも事実だ。例えば、医療現場。CTなどによる画像診断では、医師は数百枚の画像を「読み」、すばやく診断をくだすことが求められる。人間の目が見落として

しまうような微小な病変をAーは見つけてくれる。

企業活動にせよ日常生活にせよ、Aーの技術と共存することはもはや避けられない。それがわれわれの宿命だ。Aーを巡る不安と期待、われわれ市民の思いは複雑だ。

しかし、Aーのことをもっとよく知れば、いたずらに不安に陥ることは少なくなるだろう。Aーの進歩に詳しい専門家たちは、われわれの不安にどう答えしてくれるのだろうか。特集記事の4編は、Aーの進歩と社会の関係を冷静に考えるためのヒントを与えてくれる。